



腐ったリンゴ

英語の諺に

『 The rotten apple injures its neighbor. 』(腐ったリンゴは隣のリンゴを腐らす。)というのがある。

日本でも、リンゴ箱の中に一個でも腐ったリンゴが出るとすべてが腐る、という教えがある。

スタンフォード大学の経営学教授 Robert Sutton 氏は、『 悪影響を及ぼす少数の人がすべてをダメにする。 』と語りさらに『 チームを引っ張ってくれる優秀な人材を採用・起用するのと同じぐらい、組織にとって悪い影響を及ぼす人を雇わないことも重要 』と説いている。

世界中どのような組織でも、同じ悩みを抱えていることが分かる。

企業の人事担当者や社長は、良き人材を求めることばかりに目を向けすぎると、病原菌になりかねない人を見抜くことへの関心が薄れる。

昨今、凶悪事件を引き起こす若者を見るがいい。

イケメンでスタイルも良く、あいさつも良くする。

一見好青年である。

採用試験に提出する書類も面接の態度も全て作り物と思ふべし。

なぜなら彼らは、高度な試験対策を受けた人間だからだ。

人間の本質を見抜く力を養え。



情報提供: 特別情報紙

真空断熱材が省エネ住宅の主力建材に一步前進

断熱材厚さ 12mm で、驚きの高性能!※



省エネ住宅や既存住宅の断熱改修などで、真空断熱材の活用が拡大する可能性が高まった。

経済産業省は8月22日、日本工業規格 (JIS) の改正を実施。

その一つとして、新たに真空断熱材の測定方法を導入した。

これまで曖昧だった熱抵抗や熱伝導率などの性能が示せるようになり、グラスウールやポリスチレンフォーム、硬質ウレタンフォームといった一般的な建築用断熱材と比較し検討できるようになる。

熱伝導率は見掛けの熱伝導率となるが、住宅設計時の外皮計算に用いることも可能だ。

住宅向けグラスウール断熱材のほか、冷蔵庫や自動販売機向けの真空断熱材を販売する旭ファイバーグラスの担当者は、「一つの指標ができることは、住宅分野に展開するにあたり、今後の製品開発・販売への追い風になると考えている」と期待を寄せる。

見掛けの伝導率を測定

真空断熱材は、芯材にグラスウールを使い被覆材にはアルミ箔を使用するなど、複数の材料で構成される。それぞれの素材は伝熱性能が異なるうえ、表面にしわや凹凸が生じるケースもあることから、断熱性能を適切に測定し評価する方法の標準化が課題となっていた。

改正したのは、断熱材の断熱性能を測定する方法の一つである「JIS A 1412-1 (熱絶縁材の熱抵抗及び熱伝導率の測定方法-第1部:保護熱板法 (GHP 法))」。

真空断熱材の中央部分における熱抵抗および見掛けの熱伝導率を一定程度の信頼性をもって測定できる方法 (真空断熱材の熱抵抗および見掛けの熱伝導率の測定方法) を付属書として規定した。

既に石こうボードで真空断熱材を挟み込んだ製品や床用の製品など、真空断熱材を使用した製品が複数ある。

今後はさらに活用の方が広がりそうだ。

ただし、住宅向けの断熱材としての本格的な普及にはまだ課題もある。

その一つが耐久性の問題だ。

例えば、真空状態の内部に経年劣化などで気体が投下する場合や、被覆材が破損した場合などに、断熱性能が低下することがある。

これらの点については、現在、JIS の改正などで対応することも検討中だ。



情報提供: 日経アーキテクチュア